

タイトル 名塩の土のインテリア
～一般解から特殊解へのリノベーション～

設計 SQOOL 一級建築士事務所

施工 (株) 鷲尾工務店

タイプ 持家一戸建

構造 鉄骨系プレハブ

講評 地域の土を入れて漉く名塩和紙の利用や、さらにその土を壁に塗るなど、素材使いの工夫で軽量鉄骨造の建売住宅イメージを一新。引戸でつながる空間は利便性とともに伸びやかな印象に。視線は外とつながり庭いじりが好きな施主にとって魅力的な空間になった。

リフォーム前後の写真



名塩の土を混ぜた壁やタイルレンガで囲われた温かみのあるLD



職人が製作してくれた名塩和紙を貼った玄関ホール

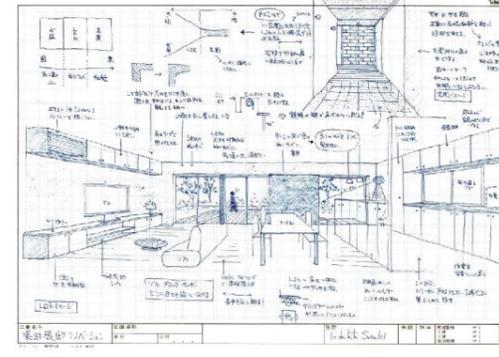


3つの窓を一体的にデザインし、デッキから庭へ繋がるLDK

リフォーム前の写真



初回手案の手書き図面



土から出る自然の色

生成過程で残る土を土壁に



日本に2つしか現存しない名塩和紙の工房



橙と青の名塩和紙

既存建物は全国どこにもある分譲地のハウスメーカー軽量鉄骨建売でした。既存構造を調べ、活かしてプランニングしました。

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

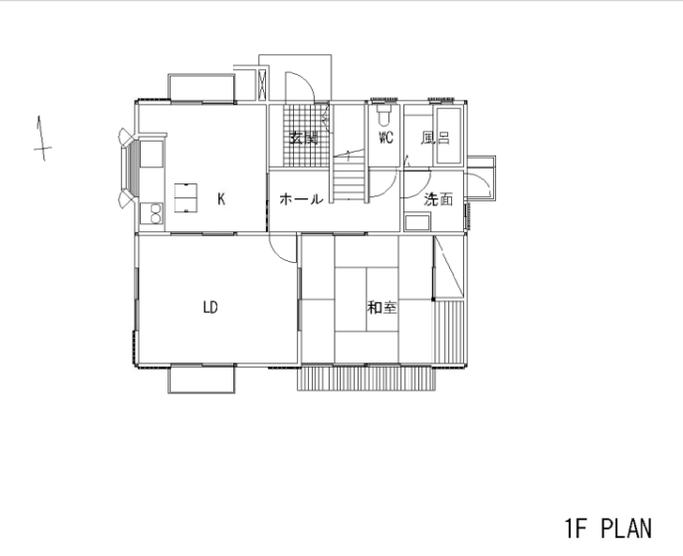
全国どこにもある分譲地のハウスメーカーの建売に、名塩という場所性や施主らしさ、という特殊解を持たせるリフォームをしました。施主がガーデニング好きであることから土に着目し、名塩には造成で得られた土を色の原料にして和紙を作る伝統産業があることにたどり着きました。ここでは名塩和紙やその生成過程で残る土をインテリアとして、造成地の建売に還元し採用することにしました。不要になった和室はリビングに、回遊できる家事動線も加えて使い勝手も改善。ご夫婦が気に入った2色の名塩和紙を玄関に使い、残った土をリビングダイニングの壁に塗ることで温かみのある素材で囲われるように設計しました。名塩は冬はとても寒い場所なので、床暖房の新設やペアガラス化等、温熱環境の性能向上も試みました。必要なリフォームをしつつ、日本に2組しか現存しない地元の伝統産業に目を向け残していく意識を、名塩に新しく住む住まい手にも持ってほしいと願い設計しました。

性能向上の特性 床暖房や設備の新設とペアガラス化

特に配慮した事項 地元の土を使った名塩和紙や、その生成過程で残る土をインテリアに採用し、どこにもある造成地のハウスメーカー建売に場所性や施主らしさを持たせ特殊解へ。

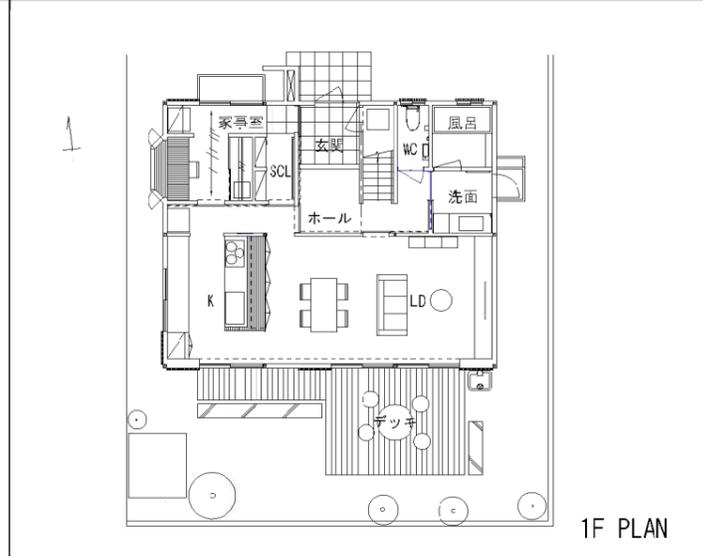
データ			
所在地	兵庫県西宮市	新築竣工年	1991年
築後年数	27年	施工期間	100日間
該当工事床面積	119.45㎡	総工事床面積	119.45㎡
該当部分工事費	1400万円	総工事費	1400万円
居住者構成	65歳以上：0人 / 15～64歳：2人 / 15歳未満：1人		

リフォーム前の平面図



1F PLAN

リフォーム後の平面図



1F PLAN

リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ ■階段/ ■玄関/ ■インテリア/ □ラッシュリフト共用部分/ □その他